

御殿場市電の祝言をめくっての聞き取り（談話資料として）

山口幸洋

場所；静岡県御殿場市電（市教育委員会渡辺好洋氏の紹介による）

話者；杉山重雄（M41年生まれ）

日時；平成2年8月9日

始めに

静岡県御殿場地方の祝言に関わる慣例とか口上を伺ったものであるが、テープからの文字化をしてみると、話者の特徴的な物言い（早口）のせいで文字化に意外に手間取った。12回以上聞いてなお「聞き誤り」（アクセントエーション——「アクセント付け」にも修正の余地を残す）が予想されるが、聞き誤りの原因の一つは私自身の民俗学的素養の薄さにもある。要するに談話そのものを理解するためには、予想される内容や語彙に関する予備知識がないと駄目な場合があるということがあるのである。そのために本資料は民俗学的資料としても中途半端なものになった。これはしかし、この研究はもともと民俗学のためではないということでお許しを頂くほかはない。

聞き誤りのもう一つの原因は話者の早口にもある。しかし一般的に言って、早口と言っても現地方言になれない者が早口と思うだけで、器械測定をしたならそれほどではないということもありうることである。話者の早口は当地方言特有の談話スタイルのせいだと思われるふしもある。その特徴は個々の発音（単音）よりむしろ韻律と言うべきものであるらしいと気がついたのが収穫である。実は話者の聞き取りが不行き届きであるのも、話者との対話において私が話者のその種の談話スタイルに気を取られていたということがある。私としては当面、このいわゆる韻律的特徴とは何かということに興味があるので、今後の研究に大きな意味があると考えてこのさいこの資料を公表に使う次第でもある。

【結納取り交わし】マ「ー、ヒ「ラッタクユートユート、まあ簡単に言うと、ユ「イノーモッテ、イ「ヨイヨ」ト「リキメダ」トユートキ「ニワ、マ「ーハ「ナシアイガマトマッテ、「マ「ー、結納持って、

いよいよ取り決めというときにはまあ、話合いがまとまってもう、オ「サケ、カ「タメノオサカズケトユート」デ、コッ「チ」カラ「イ」ッショ

一「モ」ッテイ「クデ」スヨ、

お酒、困めの杯ということで、こっちから一升持って行くですよ。

ソ「レデ、ソ「ノトキ」ニマ」ーユ「イノー、それで、その時にまあ結納
ヒ「ギミヤーイ」ーカ、オ「タクノオム」コサンダトカマ」ー、オ「ヨメサンダ
ト」カユーノ」ーマ」ー、

日決めは良いか、お宅のお嬢さんだとかまあ、お嫁さんだとかいうのをまあ、
ヒガラク」デイ「ワ」ッタコ」ンダッテマ「コトニアリガト」ーゴザイマ」スッ
テ、日が楽で（？）祝ったことだってまことに有難うございますって
ソ「ユーマ」ー、コ「ージョーオリッパニユエ」バ、キ「リ」ガ「ニヤ」ーコト
」ダケド、そういうまあ、口上を立派に言えばきりがないことだけど
「イ」マイ「ナカノコト」ダカラ、ソ「ンナコト」デシカ」ーマ」ー、

今、田舎のことだからそんなことでしかまあ、

ソ「ノハナシ」ガッテソ「レカラ、ソ「ノトキ」ニサ「ケノトキ」ニ、

その話がつてそれから、そのときに酒のときに

「ム」コニナ」ルシトヨ「メニナ」ルシトガ、「コーシャ」ナマ」ー、ア「ルテ
」ードア「カノツカ」ナイキモノキテ」ネ」ー、

婿になる人嫁になる人が上品な、ある程度垢の付かないきれいな着物を着て
ソ「シテマ」ーオ「チャオマ」ーサキニ「ダ」シテ、ソ「レカラ、オ「チャクミ
ヤ」ーシ「トイテカラ、

そしてまあお茶を先にだして、それから、お茶汲みはしといてから
「リョ」ーシントソレカラ、コッチノマ」ーナ「コ」ードサント「ネ」ー、

両親とそれから、こっちのまあ仲人さんとね

ナ「コ」ードサンガソノマ」ーサ「キョーモ」ッテ「ク」ルアイダ、ソ「レカラ
マ」ー、仲人さんがそのまあ酒を持ってくる間、それからまあ

ソ「コラノシミヤーノホ」ーカラミテ、そこらのしまいの方から見て
ナ「コ」ードサンノド「コ」エマーカ「リニダ」レデモソノオ「サケオホレカラ、

仲人さんのどこへまあ飯に隠してもそのお酒をそれから
ハ「ナシ」ガキマッテマ」ー、ア「リガ」トーゴザ」シタトユーコト」デ、

話が決まってまあ、有難うございましたということで
「ヘンジ」ガイタダケレ」バ「マ」ダユー、「シタ」ーマ」ーモ「ラッテモライ

マシヨ「ートユー、

返事が頂ければ、まだいう人はまあ「貰って貰いましょう」という
ソ「レマデ」ノシ「タゴシラエ」ッテユー「カ、それまでの下ごしらえというか
シ「タジュンビ」カア「シタノナ」ンジニイクトユーコト「ニナ」レバ、

下準備か（それが）明日の何時に行くということになれば
ジ「ブンガツタエテイケ」バマ「ーカ「タホ」ーデモゼ「ンブソロ」シテ「マ」
ッテルワケ「デス」ヨ、

自分が伝えていけばまあ、片方でも全部支度して待ってる訳ですよ
ア「シタノナ」ンジニ、ソ「レカラマ」ー、コ「ノヘンデ」ワネ「ー、ダイタイ
ゴ「ゴワイカナ」イデス。

明日の何時に、それからまあ、この辺ではね、だいたい午後は行かないです。
ゴ「ゼンチューニマ」ーヒ「ノア」ルウチニ、 午前中にまあ日のある内に
ナ「ルタケハ「ヤ」イウチニイッテ」ネ「ー、 なるだけ早い内に行ってね
マ「ーサキョースマ」シテ「ク」ルッテユー、 まあ酒を済ましてくるっていう
ソ「ノトキ」ニサ「ケガタメニト「リアエズ、グ「ラ」イニシトクカ「ナ」ー、
その時に酒固めにとりあえず、ぐらいにしとくかな
ム「カシャー、ヤ「ナギダル」ッテユーノガア「ッタデ」スヨ、

昔は柳樽っていうのがあったですよ
オ「タク、シッ「トラレ」ルカド」ーカ「ネ、 あなた知っておられるかどうか
カ「ンタンナアレデ」キタ、プ「ラスチ」ックカ「ナ、ア「ンナモ」ノデ」キテ

簡単な、あれで出来た、プラスチックかな、あんなもの出来て
ア「ノ、ヤ「ナギダルニシャ「レタ」ンデ」ス「ネ、ソ「レニアノ、

あの柳樽にしゃれたんですね、それにあの
「イ」ッポンツ「メテソレカラアノ、「ワ」ラノア「オブミシタ」ワ「ラオ、ジ
ョ「ーズ」ニマ「スメ」ニク「ンデ」ネ、

一本つめてそれからあの、藁の青踏みした藁を上手に樹目に組んでね
ソ「レニ、アノー「グ」シキリョーホー、ハ「ラワ」スリシテ「ネ、ソ「レオ、

それにあの、具式両方ハラワスリ（？）してね、それを
コンナ、ナ「ツナ」ツジャーヤリマセ「ン……デ」ネ、

こんな、真夏ではやりません……

「マ」ーコ「ノヘンノ、オ「メデタワ、ヘ「一キンシテ、アノ、フ「ユバ」ガオ
「一カッタデ」スワ、 まあこの辺のおめでたは平均して冬場が多かったですわ
「デ」スカラマ「ーフ「タリ」ジャナ「クシテサ「ンニ」ンデス「ネ」ー、

ですからまあ二人じゃなくして三人ですね
「ム」コデア「レトカ、ヨ「メデア」レトカソ「レーナコ」ードガヒト「リツ」
イテ、 婿にしても嫁にしてもそれに仲人が一人ついて
ソ「レニイ」マノソノ、サ「カダル」オモ「ッタリ「タ」イオモ「ッタリシテイ
クシト」ワ、 それに今のその、酒樽を持ったり鯛を持ったりして行く人は
「イ」マツ「キビ」トッテユーンダカ「ナ」ンテユーンデコレニアノ、テ「ンビ
ンエ」ネ「ー、 今、付き人っていうのかなどというのでこれにあの天秤へね
ソノカ「タホ」ーワ、サキョーイ「ッショーイレテ、ソ「レデカタホ」ーワアノ
ー「タ」イエマーサレマ「ス」ネ、

その片方は酒を一升入れて、それで片方はあの鯛へまわされますね
ソ「レオカ」ツヒデマー「キョ」ーワヤ「クソクド」ーリオ「ネガイニアガリ」
マ「シタトユ」ー「ネ、 それを担いで（注．カツヒデと発音）

まあ今日は約束通りお願いに上がりましたというね、
オワリクダサ「イトユ」ー「ネ（笑い）、 お座り下さいというね、
サ「ンニンモ」シク「ワゴ」ニ「ンデスワ、ゴ「ニ」ソクヤッパ「リアノ」ー、
三人もしくは五人ですわ、五人はやっぱりあの
ナ「コ」ード「フ」ーフデイク、カ「テーモア」ルケド、

仲人夫婦で行く家庭もあるけど
ヤッ「パ」リム「コーサンエ」モ「メ」ーワクカ「ケタラワ「ル」イトユートコ
「デマ」ーヤッ「パ」リアノ、

やはり向こうさんへも迷惑かけたら悪いということでまあやはりあの
ナ「カナ」カカ「リモノノタルヤナ」ンカモ「ア」ルカラカロ「ーカラ

なかなか借物の樽や何かもあるだろうから（注．アルカラカローカラ）、
ソ「レカラマ」ーユ「イノ」ー、 それからまあ結納
ホ「ンシキノグラ」イニス「リヤ」ー、 本式のぐらいにすれば
マ「ーア」シギリ「トカナ」ントカカ「タメトユートキ」ニヤ「イ」マノヨ
ーナコト「デ」イ「マノ「タ」イオカツ」ヒデ、

まあ足切りとか何とか固めというときには今のようなことで今の鯛を担いで
サ「ケオカツ」ヒデイクトユート「キ」ニワホ「ントーニ、

酒を担いで行くというときには本当に
「マ」ー「シュ」ーゲントユーコ「ト」デコシイレノ、ダンド「リ」デイクガ、
まあ祝言ということで興し入れの段取りで行くが
ソ「レノヨ」ーノコト、サ「ケスマシ、トユー「ニ」ワ、カ「ンタンナマ」ート
「リカワシデ、 そのようなこと、酒済ましというには簡単な取り交わして
「マ」ーヨ「メ」ッコガ「デ」タリ「ム」コガデタリトユ「ー、コ「ト」デソノ
シ「ンローシ」ンプ、ガ「ワモ「デ」ル、

まあ嫁が出たり、婿が出たりということで、新郎新婦側も出る
モ「ラッテモラウホ」ーノ、ウ「チデ」ワ、 貰ってもらう方の家では
マ「ーヤ「ハ」リイ「チオーレ」ーオツク「シテヨ「メ」ッコニ、オ「チャーク
マシタ」リ、 まあやはり一応礼を尽くして嫁に、お茶を汲ましたり
マ「ーア「ガッタ」リオ、ト「リツガシ」タリシテマ「ー、タ「イグースルワ」
ケダ。 まあアガッたり(上がり湯?)を取り繕がしたりしてまあ、待遇する訳だ
タ「ニンサンニ」ワデス「カ、タ「ニンニワ、 他人さんにはですか、他人には
「モ」ーイ「ナカノコト」ダカラ「マ」ーソ「ーイッタ、オ「スイモノガサキニ
「デ」テ、 もう田舎のことだからまあそういった、お吸い物が先に出て
サ「ケデ、イチオーカ「タメ」オシテ、ソイ「デ、 酒で一応固めをしてそれで
ソノツ「ギ」ニ、スイモノ「ー「ダ」シタデス「ネ、 その次に吸い物を出した
「イ」ッカイ「ロイロ、ゼ「ンプニ」ワソ「ー、 一回いろいろ膳部にはその
ア「ノーダ「イコンオツケ」タリ、 あの、大根をつけたり
マ「メ」オコロガス、マ「メ」ナンテユーワ「ネ、マ「ーアノシ「カクノマンマ、
マ「メ」オマ「メデセーカツガデキ」ルヨ」ーニトカ、 豆をころがす、

豆なんていうのはね、まああの四角のまま、まめで生活が出るようにとか
マ「メデクラスヨ」ーニトカトマーイミ「デ、セ「タラシ」ーヤンスガ「マ」ー、
まめ(健康)で暮らすようにとかまあ(そういう)意味でしたらしいですが
ダ「レ「デ」モイ「マ」ノコト「シテヤッタ、ケ「ーケンガアリマ」ス「ネ」ー、
「デ」スカラム「カシワ、

體でも今のようなこととしてやった経験がありますね、だから昔は

イ「タマエナ」ンカノ、チョ「ット」ア「ルウチ」デ「ワソノイ」タンマエオタ
ノ「ンダデ」スヨ、板前……ちょっと裕福な家ではその、板前を頼んだですよ
「キ」ヨーナシト「ワカ」ザリモノツケ「タリナ」ンカシテ「ネ」一、

器用な人は飾りものをつけたりなんかしてね
「ソ」ーソ「ーソ」レワ、ナ「コ」ードガ「ツ」イテッタ「トキニヤッパ」リ、
ム「コーデ」モヤッ「パ」リアノー、

そう、それは仲人がついていった時にはやっぱり向こうでもやっぱりあの
「イ」ートケーモ「ラッテモラウダ」カラマ「ーマ」一、ソーセツテアノー、

良いところへ貰ってもらうのだからとそう言ってあの
ム「コーデ」モ「キ」ンジョノチッタ「ーソ」一ユーヨ「ーナオ」カッテ「ツチ
ユーカ「リョ」ーリノデ「キ」ルヨーナシト「タ」ノ「ンダリシテ」ネ、

向こうでも近所の少しはそういうお勝手という料理の出来るような人頼んだり
ナニソ「イカラマ」一、コ「ノヘンデ」モス「ク」ナクモサ「ンカイグ」ライワ
ソノ「ヒロ」ーニ、なにそれからこの辺でも少なくとも三回ぐらいはその披露に
【式当日】ケッ「コ」ンシキワ、カンタンナジカ「ンデショ」一、「ダモ」ンダ
デヒ「ロ」ーエンノトキ「ニ」ワ、

結婚式（そのもの）は簡単な時間でしょう、だから披露宴の時には
サ「ンドグ」リャーワ「イ」マ、「イ」マノカ「イジョ」ーア「タリデヤ」ルデ「
モ、

三度ぐらいは今、今の会場（結婚式場）あたりでやるのでも
サ「ンカイグ」ライワイ「ロナ」オシダトカナ「ントカッテヤ」ルジャ「ーナ」
イデス「カ、マーア」一ユーナコト「デ」ネ、

三回ぐらいは色直しだとか何とかってやるじゃないですか、まあそういうことで
ム「カシーデ」モヤッパ「リソ」レニチカ「イヨーナコト」ヤッテ、

昔でもやっぱりそれに近いようなことをやって
ヨ「メノ、イ「ロナ」オシダヨ」一ナコト「ユッテ、カ「ミナ」オシオマ」一エ
ート、

嫁の色直しだというようなことを言って髪直しをまあ、えゝと
シ「マダ」ニユッ「タ」リ、ク「ズ」シテ「ネ、ソレアノーマ「ゲニシテ、「デ
「ルトユーコト」デ、シ「タ」デスヨ、

島田に結ったり崩してね、それあの曲げにして出るということでしたものです
「デ」スカラキ「テクキモノダ」ッテ、

ですから着ていく着物だって

ウ「チデモ」ッテヒャクショ」ーオシテ、 寮でもって百姓をして
オ「カ」イコー「カ」ッタコトア」レバアノ、 お茶を飼ったことあればあの
コーフ」ダンデモ」ッテ、マー「ス」デニ「ジュ」ンビオシテ」ネ「ー、「イ」
ー「マ」イオソノウ「チデ、 こう常々すでに準備をして、良い繭をその家で
「ガ」ラガラ「ト」ッテ「ネ、ソ「リョーアノー、オ「リヤエヤッテ、オ「ラシ
テ」ー、 ながら取ってね、それをあの織り屋へやって織らして
コ「ノアタ」リダ」ッテ「キョ」ートアタリー「ド」ンドンヤ「リマ」シタ「ヨ、
「ソーシテソノテ、 この辺りだって京都辺りへどんどんやりましたよ、そして
アノイ「ヨイヨソーユー」トソ「ナ」レバ、 いよいよそういうことになれば
ガ「ラオイロ」イロミテアンマリハ「デ」デ「ナ」イホーガ「イ」ートカ、

柄をいろいろ見てあんまり派手でない方が良いとか
ジ「ミ」ナガ「イ」ーダトカキ「メルヨ」ーニシテ」ネ「ー、ヤ「リマ」シタヨ、
「デ」スカラマ」ー、

地味が良いとか決めるようにしてね、やりましたよ、ですからまあ
ジョ「ーマエガ、「ア」ルテード「イ」ーモノシ「タマエガマ」ーザッ「トシタ、

ジョーマエ（？）がある程度良いもの、シタマエ（？）がまあざっとした
シ「タマエ、ウ「チノ、ジ「カヨーグ」ライデモッテソノ「イ」マノ、ハ「レギ
」ニキルナ」ンテユーモ「ナ」ー、

シタマエ、家の自家用ぐらでもってその今の嗜れ着に着るなどというものは
「イ」ーモノー、ツ「ブシタ」ッテユッ「チャ」ーオカシ」ーケド「ネ、

良いものを潰したと言っては可笑しいけどね
エージ「ブンデ、テ「オリデ、デ」スカラマ」ー「チョ」ットシタウチ「ジャー
ハ「タ」ーオ「リマ」シタワ

えい、自分で手織りで、ですからまあ一寸した家では機を織りました
【始めの口上】コージョー「デ」ス「ネ」ー、 口上ですね、
コージョーノベルウ「マ」イシトダッたら、 口上述べらうまい人だったら
「マ」ズアノー「テ」レビヤラ」ジオデユートオ「ナジヨ」ーニ「ネ、ヤ「ルワ
」ケデスケド「ネ、 まずあのテレビやラジオでいうと同じようにやるわけ
フ「ツーノ、ザッ「カケノ」ー「ネ、ザッ「カケド」ーシノコー、オ「ツ」キア
イダカ」ラ「ネ、 普通の普段のね、普段の付合岡士のこう、お付合だからね

ヤーハ「ナシアイガマトマッテ、オ「タクノ、オ「ニ「一チャンガマ「一「キ」
テクレルトユーコタ「一オ「メデタダ」ガ、 やあ、話合いがまとまって、
お宅のお兄ちゃんがまあ、来てくれるということはおめでただが、
「キョ」一ワ、ジ「カンダカ」ラ、オ「ネガイシマ」シタヨ「トニ「一ヨ」一ナ
カ「ンタンナコト」デ「ネ、

今日は時間だからお願いしましたよというような簡単なことでね
アノーヤ「ラシテモラッタ」ダ「ネ、 あの、やらして貰ったんですね。
【相手の方】「マ」一セ「ンポー、コ「キトドカ」ナイモ「ノ」一モ「ラッテモ
ラッテ、 まあ先方は、行き届かないものを貰ってもらって
マコト「ニ……ゴシ」ド一ノホドード「一ゾヨロシクオ「ネガイシマ」ストニ一
ヨ「一ナコト」一「一デス」ネ、 まことに……、

ご指導のほどどうぞよろしく申し上げますというようなことでね
ア「イテノヘンジョー」ワ、ソ「レガネ、 「イ」マノコトバ「ニス「レ」バモ「ッ
ト、 ギ「ゴチナ」ク「ネ、 アノー、

相手の返上は、今の言葉にすればもーとぎごちなく
ハ「イカラナ、コ「トバ」ッテユ「一カジ「ダイリユ一ニ「ネ、

ハイカラな言葉っていうか現代風にね（いうところだが）
マーザッ「カケド」一シノハ「ナシ」デワマーカ「ンタンニユ「ニ」バソ「ンナコ
ト」デスヨ まあざっくりばらんの話ではまあ簡単にいえばそんなことです。
【新郎新婦の挨拶】ヨ「メ」ッコニシテモ、シ「ンローニシテ」モマ「ダマ」一
ワ「シラノジダイノコ「ドモタ」チワ「ウ」ブダカラ「ネ、

嫁にしても新郎にしてもまだ、まあ私等の時代の子供たちはうぶだからね、
ソ「一ユーコト」ワマ「一、ハ「ズカシソ」一ナカオシテデ「テク」ルデ「スヨ、
そういうことはまあ、恥ずかしそうな顔をして出てくるですよ
ホント一ノ「ス」レタモノデナ「キヤー、 本当のすれたものでなければ
ソ「コマ」ジャーモッ「テカレネ」一「ナ、 そこまでは持っていられないね
【花嫁の近所】マーダ「ンダンシレテク」ルカラ「ネ、

まあだんだん知れてくるからね
ウ「チジャ」一ア「ソコエモラッテモラウコト」ニシタ「ガ「ヨ」一マタ、タ「
ノミマ」スヨ、

家ではあそこへ貰ってもらふことにしたがね、またよろしく頼みますよ
「ヤ」ーソリャオ「メ」デト「ゴ」ザイマ「シ」タトユ「フ」ーデマ「ー」

やあ、そりゃおめでとうございましたという風で、まあ
「マ」ーオ「マ」エフ「ド」ーノア「イ」サツガイッ「テ」ンバリデ「ス」ネ、

まあお前、不動の挨拶の一点張りですね
[貰う側] オ「タ」クデ「ワ」イ「ー」トコ「カ」ラ、ヨ「メ」ニキ「テ」モラウデ「ヨ」
カッタジャナイカ「エ」、

お宅では良い所から嫁に来てもらうので良かったじゃないか
ヨ「カ」ッタジャナイカ「エ」トユ「ー」ア「イ」サツカワ「ス」ネ、

良かったじゃないかという挨拶交すね
[出る子へ] モ「ラ」ウコト「ン」ナツタデ「マ」ーホイデ「モ」ゴ「ヤ」ッカイニナ
ッテゴ「シ」ド「ー」ア「オ」ガナ「キ」ャー「ヨ」ー「ト」ユ「ー」トコ「デ」ナ、

貰うことになったからまあそれでもご厄介になって
ご指導仰がなきゃねということでは
「マ」ーミ「ン」ナ「ニ」セ「ワ」ーヤイテモラウ「ダ」ー「ヨ」ー「ト」ユ「ー」コト「デ」、
まあみんなに世話を焼いて貰うんだよということで
「マ」ー「ド」ー「シ」テ「モ」マ「ー」イ「マ」ノコトバ「デ」イ「エ」バ、

まあどうしてもまあ今の言葉でいえば
「シ」ド「ー」ア「オ」グダトカ、レ「ン」タツシテモラウ「ダ」トカッテユ「ー」コト「ー」イ「
ー」マ「ス」ケド「ネ」、

指導を仰ぐだとか、線達してもらうんだとかいうことを言いますけどね
[当日の近所の人] 「キ」ンジョノシトガデ「ス」カ、マ「ー」ソ「ン」ナ「フ」ー「デ」、

近所の方がですか、まあそんな風で
「キ」テ、ヨ「コ」シテモラッテアレデゴ「ザ」ンシタ「ナ」ー、「ゼ」ヒコ「
コ」ノ、カ「フ」ー「ニ」ソ「マ」ッ「テ」、

来て、よこしてもらってあれでしたな、ぜひ此所の、家風に染まって
ヒ「ト」ツマ「ー」カ「マ」ドノニンゲンニナ「ッ」テホシ「ー」トユ「ー」ヨ「ー」ナ「ネ」、

ひとつまあ、電の人間になって欲しいというようなね
マ「ー」ソ「ン」ナ「ヨ」ー「ナ」カ「ン」タン「ナ」、
まあそんなような簡単な
「ヤ」ーサツオト「リ」カワシテマ「ー」ヨ「ロ」シクオネガイシマ「ス」ヨトユ「ー」ヨ

「一ナコト」デスガ、

挨拶を取り交わしてまあよろしく申し上げますよというようなことですが、
シ「カクシ」メンノコト「ワソ」リチャーモ「ット、リッ」バナコトバ「モ」ア「
ルワケ」デスケド「ネ、

四角四面に言うとなれば、そりやあもっと立派な言葉もある訳ですがね
マ「一ワ」シラ「ノカ」ンタンナコ「トデヤ」レ「バソーユーヨ」一ナ、

まあ私等の簡単なことでやればそういうような
[嫁の親に] オ「ヨメサンノオヤ」ニタ「イシテワ、ソ」イダ「ッテオ」ヤ「ノ
「リョ」一シンノアルオ「ヤ」ト「ネ、

嫁の親にたいしては、だって親でも両親のある親とね
カ「タオヤ」トユーガ「ア」ルンダシマーワ「シラ」一カ「タオヤ」ニソダッテ
「ズ」イブン…… 片親と言うのがあるんだし、まあ私等は片親に育って随分
ゴ「シ」ド一ネガイ「ゼ」ヒオタノモーシマ「スヨトユートコ」デヒタスラ、

ご指導お願いぜひお頼み申しますということで、ひたすら
ア「タマ」一サ「ゲテヤ」ルワ「ケデス」ナ、 頭を下げてやる訳ですな
オ「ヤ」ニシテ「モ」ネ、ソノ、 親にしてもね、その

ハ「ハオヤガ」ワリノシト「ニ、シ」テ「モヤッ」パ「リソ」一ユーヨ「一ナコ
「ト」ニ「ナ」ンシロオ「メデト一ゴザイマ」スノレ「ンパツデ」スワ、

母親がわりにしてもやっぱりそういうようなことになにしる、

おめでとうございますの連発ですわ
「ダ」カラコ「ノヘンデ」ワチョ「ード、ケッ」コ「ンシキニヤ」一オカネモイ
「リマ」ス「ネ、 だからこのへんでは丁度、結婚式にはお金もいりますね
シ「タクオ」ス「ル」カライッ「シユーカンク」ライワカカ「ッタ」ネ、

支度をするから一週間くらいはかかったね
チョ「一ナ」ンノヨ「メオモラウナ」ンテユーフ「一ニナ」ッテ、

長男の嫁を貰うなんていう風になって
ワ「シラ」ワマ「一コレデ」カ「ナリシ」マイノホ「一ダッタカラ」ヨ、ソナ
ソノ 私等はまあこれでかなりしまいの方だったからね、そんなその

[披露] ソ「レワ、アノマ」一カ「リニ、コ」コデ、ウ「チト、マ」一、

それは、あのまあ、仮りにここで、家とまあ

ソ「レマ」エノアノ、アシイレ「トユーコトガアリマ」スヨ

それ前のあの、足入れと着ることがありますよ（式は後の意味）

ア「シイレ」トユートキ「ニ」ワ「イ」ー、ソノ「イ」ーヒニ、

足入れの時には、良い、その、良い日に

……ドントコ「マデキ」タカラ、ウ「チョーオシエナガラ、

「……ドン」（人名屋号「……どん」）の所まで来たから家を教えながら、

キ「ンジョ」エモチョクリ「ア」イサツニマ「ーレ」トユー、

近所へ餅を配りながら挨拶に回らなければならないという（場合）

レ「ーフクオキテ」ツカラジャー、トテモア「ルキニク」カッタ、

礼願を着てからでは、とても歩き廻った、

カ「ンタンナヨーソーデ」モ「イ」ーダカラ、 簡単な洋服でも良いから

ア「ル」ケトユーコト「デ、リヤ」クシキニイクホ「ーガオ」ー「イデス」ネ、

歩けば良いということで、略式に行く方が多いですね

【終了の挨拶】「ソ」ーダネ「ーマ」ー、

そうだね、まあ

イ「ヨイヨオヒ」ラキトユートキ「ニ」ワヤッ「バ」リアノーナ「コ」ードサンガ、

いよいよお開きだというときにはやっぱり仲人さんが

……「タ」ダウ「ゴ」イタダ「ケ」デナンテユーヨ「ーナコ」ト「デ」ネ、

……ただ動いただけだなどというようなことでね

ヤッ「バ」リイ「ナカフーワ、イ」ナカフーノ「ア」イサツオシ「テ、アノ、

やっぱり田舎は田舎風の挨拶をして、あの

オ「ヒ」ラキ、「ノ、ダ」ンド「リオスルヨ」ーデスガ「ネ、

お開きの段取りをするようですね。

ソ「リヤナコ」ードガ、ム「コーノ、ナ」コ「ードサンエタ」イシテ「ネ、

それは仲人が、向こうの仲人さんへたいしてね

……ヤッ「バ」リジ「カンモダイタイ、 ……（始めに）やっぱり時間も大体

ナ「ンジカンメグ」ライニシ「ヨ」ージャ「ナ」イカトユ「ーウ」チアワセオ、

何時間目ぐらいにしようじゃないかという打合せを

ジ「カンタイオキメト」イテ「ネ、

時間帯を決めといてね

「イ」マノヨスジダ「カラ、

今の世筋だから（現代風に）

「ダ」カラヤッ「バ」リム「コーノナコ」ードサンノホ「ーガドナタサンモ、コ」

ノヘンデ、 やっぱり向こうの仲人さんの方が「どなたさんもこの辺で」
ア「ノー、チ「一タ」ー、オ「ヒ」ラキト「ユ」ーカ、……シタ「一オヨ」バレ、
あの少しは「お開きというか、（結婚式のときはなかなか
それが不可能といった趣旨。この部分不明）およばれ」
……カ「タチノウエ」デ、レ「ンラクト」ッタジャナイカ「ナ、

形の上で連絡取ったじゃないかな、
コ「ンナヨ」ーナハナシ「ワオ」メデタク「ネ、こんな時はあくまでおめでたく
[仲人二人]ホ「ショーニンガ」ネ「一、「ム」コノシ「ンローガウト、

保証人がね、婿の新郎側と
「シ」ンプノガワノ、フ「ターリタテ」ルデス、ホ「ショ」ーニンワ「ネ、

新婦側の二人立てるんです。保証人はね。

[新郎新婦の挨拶]マ「ーアノ、シ「キジョーデ」ワマ「ー、ベ「ツニタ」イシ
テト「リタテテマ」ー、まああの、式場ではまあ、別にたいして取り立ててまあ
マ「ーアノ、シ「ンローシ」ンプガナ「コ」ードサンニ「タ」イシテカ、シ「ン
セキツ」キアイニタ「イシテトカッテユ「ーナ」ー「ネ、 まああの、

新郎新婦が仲人さんにたいしてか、親戚付合にたいしてかっていうのはね、
アンマリ「ナ」イヨーデス「ヨ、（取り立ててそれは）あまりないようですね
「ソ」ーダネ「ーソ」リヤー、シ「キ」ガオ「エチャッテ、イ「ヨイヨソノ、

そうだねそれは、式が終って、いよいよその
マ「ーカ「テーデヤッタ」バアイワ「ネ、 まあ家庭でやった場合はね
ト「リカタズケガ「ス」ンジャッテカ「ラ、ダ「イタイ、ソ「レカラ、アノー、

取り片付けが済んでしまってから、大体それからあの
「テ」ーネーノウチ「デ」ワ、オ「ヤブンミ」マイセッテ、オ「ヤブンノウチエ、

丁寧な家では「親分見舞」といって親分の家へ
サ「キホドノ、ワ「タナベサンノヨ」ーノウチエ「ネ、シ「ンロー、シ「ンプガ、

先ほどの渡辺さん（話者の紹介者）のような家へね、新郎新婦が
マ「ーイ「ヨイヨカテーノシト」トナ」ッタ、 まあいよいよ家庭の人となった
ス「ギヤマケノシト」トナ」ッタ、マ「ー「ド」ーゾヨ「ロシク、オ「ネガイシ
マ」ストユー、 杉山家の人となった、まあどうぞよろしくお願ひしますという
オ「ヤラ」モソ「ーヤッテナ」カヨクヤッテクレタ、マ「ーオ「ヤ」ニタイシテ

「モチ「ーット、

(それにたいして親分は)

親の方もそうやって仲良くやってくれた、(だから)親にたいしても少し

「ジョーズ」ニヤッテクレロ」ヨ、

上手にやって呉れよ

マ「ーオ「カ「ーサンズ「ナ「イトカオ「ト「ーサンワズ「ナ「イトカッテユ「
ーヨ「ーナコ「ト「デ「ネ、

まあお母さんズナイ(女房が強い)、

お父さんズナイ(夫が強い)とかっていうようなことで(いろいろな問題が)ね
ヤ「ウ「チヤッテヤ「ラナ「キャショ「ーガナ「イゾナ「ンテユッテ「ネ、

(あるけれども)家の伸うまくやらなきゃしょうがないよ、などと言ってね

ゴ「シ「ドーウケ「テ、イ「マ「スガ「ネ、

ご指導受けていますがね

ソ「リャーオヤブノソノワタナベサンガ、

それは親分の例えば波迎さんが

ヨ「ンデクレル「カラオ「ヨ「バレニイキナガラ、

(ごちそうに)呼んでくれるから招待されながら

センポーニ「ダ「ッテチッタ「ーナ「ンカ、ハ「ジメ「テ、ツ「レ「テ「クダ「
カラ「ネ、

先方にだって少しは何か、始めて連れていくのだからね

「マ「ーカ「ンタンナテミ「ヤゲモッテ「ネ、イ「クワ「ケデスガ、

まあ簡単な手土産持ってね、行く訳ですが

ソ「レカラマ「ーヤッパ「リア「ノー、ハ「ジメ「テノコト「ダカラニ「サンネ
ンワヤッパ「リアノ、キ「オ、ツ「カウヨ「ーダ「ネ、

それからまあ

やっぱりあの、始めてのことだから二三年はやっぱりあの気を使うようだね

「モ「ッテイクテ「ミ「ヤゲニシテ「モ「ナ「ンニシテ「モ「ネ、

持っていく手土産にしても何にしてもね

【里帰り】オ「ヨメサンノサトガエリニ「ワネ「ー、お嫁さんの里帰りにはね
セ「キハンオ「ネ「ー、マーメ「シ「ジューッテシッテラレマス「カ、メ「シ「
ジュー、

赤飯をね、まあメシジューって知っていられますか、飯重

「チョードコノグライノ「ネー、ジュ「ーバコヨ「リチョ「ットオーキ「ーデ「
スヨ、

丁度このぐらいのね、飯箱よりちょっと大きいですよ

ソ「レニマ「ーコ「ノヘンデ「ワセ「キハンオ、イ「ッパイトソ「レカラ、ソ「
リャーアノー、

それにまあこの辺では赤飯を、一杯とそれから、それはあの

シュ「ートサンデ「スヨ、オ「カ「ーサンガショ「ウ「カオ「ト「ーサンガショ
「ウ「カマ「ー、

舅さんですよ、舅さんが背負うか姑さんが背負うかまあ

カ「タオヤア」レバオ「カ」一サンガシヨワ」エテク、ソレカラ「ネ」一ウチジ
ャ」一オ「カ」一サンダネ」一マ」一、

片親あれば姑さんが背負っていく、それから無い家では姑さんがね、
コーイマ、ウ「チジャ」一ジ「ド」一シャダカラ「ネ、ソレカラマ」一、

こう今、家では自動車だからね、それからまあ
リヨ「一ホ」一ガウチトケテイルウチ」ダガ「ナ」ッテヨッテカ「カ」シテ、

両方が打ち解けているうちだがな、……
ク「レロヤ」一ソーシリヤ」一ウ「ラ」ホーデシ「ナモナーヤラ」一トコーユー
ヨ」一ニナッテ、

呉れや、そうすれば俺の方で品物はやるよと、こういうことになって
「マ」ズウッカ」ラヤッテソレカラ、 まず家からやって、それから
マ」一、アノ、ヨ「メガス」ギヤマエトツ」イデ、 嫁が杉山へ嫁いで
ソ「レカラムコーノ、ワ「タナベサンノウチ」エイ「クダ」トスレバ、

それから向こうの渡辺さんの家へ行くとなれば
ワ「タナベサンノウ「チエ、モッ「テイッテ、ソ「レカラ、

渡辺さんの家へ持って行って、それから
マ」一ヨ「メガマ」一サ「トガ」エリデチョク」リキテマーシ「ルシヨ一モ」ッ
テキタカラ「ヨ」一、

まあ嫁が里帰りでちょっと来てまあ、印しを持って来たからヨ
「タ」ベテクレロ」トユーコト」デ「ネ、 食べてくれろということでね
マ」一……アレシナカ」ッタケドム「コーデ」モチャ」ントオ「クリトドケオ」
ネ」一、シ「テクレマ」ス まあ……、あれしなかったけど

向こうでもちゃんと送り届けをね、してくれます。

【嫁が自分の父へ】オ「ヨメサンワ「ヒヤ」一マ」一、 お嫁さんはもう、まあ
ナ「ガ」イアイダオセワ」ニナ」リ、マダム「コーカタエイキマ」ストユーア」
イサツオヤリマ」ス「ネ」一、

長いあいだお世話になり、また向こう方へ行きますという挨拶をやりますね
「カ」ンムリヨ一デ、「ナ」ンテユー」カ「ナ」一、 感無量で何というかな
ハ「ンカチオメ」一アテタママ」デモッテホ「カニユーコト」モナ」ク、ソ「一
ユーバ「アイモ、ア「リマ」ス「ネ」一、 ハンカチを目へ

当てたままでもって他に言うことも無く、という場合もありますね
「マ」ーア「レガ」テ「レビヤエ」ーガデヤ「レ」バマ「ー」タ「レントア」タリ
ワヤ「ルダロ」ーナ「ー」ナカローケレ「ドマ」ー、
まああれが

テレビや映画でやればタレントあたり（うまく）やるだろうけれど
ジッ「サイニソノバメ」ンニデ「クワセ」ルトユート、シ「ラズシラズニマ」ー
ド「ー」ジョーガ、ワ「イテク」ル「ネ、
まあ実際にその場面に出食わせると、
知らず知らずにまあ同情が湧いてくるね

「マ」ーモ「ライウケ」ルホー「デ」ワイ「ー」ダケドヤッパ「リ」コー、「ナ」ン
テユーカ、
まあ貰い受ける方では良いのだけれどやっぱりこう何というか
テ「バナシ」タ「ホ」ーデワナ「ガ」イア「イダ、テ「ショ」ーニカ「ケ」タコ
「ドモオ、
手放したほうでは長いあいだ、手塩にかけた子供を
マ「ー」セ「ー」ガカ「ワルトケ」ーイッ「テ、
まあ、姓が変わる所へ行って
……カク、ナ「ラナ」イカトユーヨ「ー」ナフ「ー」ニ、マ「ー」コ「レ」テ、

……、ならないかというような風に（心配がいろいろ）、まあこれで
コ「ドモ」タチガマ「ー」ヨ「ー」チ「エンオワ」ッテ、
子供たちが幼稚園終って
ショ「ー」ガ「ッ」コーエデ「ルマ」テ、ヒチハチ「ネン、
小学校へ出るまで七八年
コ「ノアイダ」ッテモノ「ワ、ナ「カナ」カオ「ヤ」ワ、キ「ワ、ツ「カウヨ」
ー」ダ「ネ、
この間ってものは、なかなか親は気は使うようだね
ソレカラ「ジ」カニアエ「ルオ」ヤ「トア」レバ「ネ、

それから（近くにいて）じかに会える親ならね
「フ」ダンノヨノナカ「ニ」ヤー「マー、
平穏な世の中であればまあ、
セケン……ヤツァー「ナ」イニ、ナ「ントカセーカツスルガ

（部分不明）何とか生活するが
ヨカロ「ー」ナッテハナスシューガイクラモ「ア」ルカラ「ネ、

良からうなんて話す衆がいくらかもあるからね
……（部分不明）

ラクナケッコンモデキ「ルヨ」ーニナ「ッ」テ、
楽な結婚生活出来るようになって
ム「カシノヨ」ーナハナショ「ー」シタ「ッ」テ「ネ、
昔のような話をしたってね

[注] 語中語尾ガ行音は鼻音、ただしカナ文字の上では表記は鼻音表記省略。